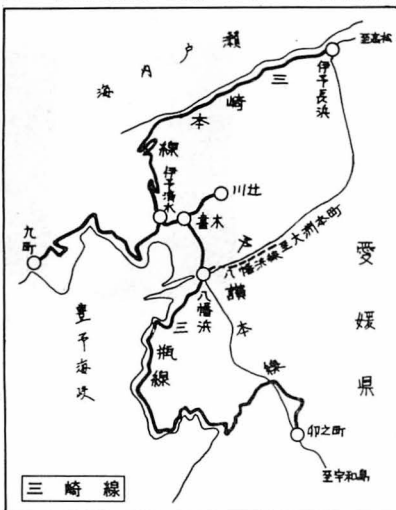


4.5kmの線。北陸線に属し線路等級は丙線である。明治44・12金津から三国町に至る鉄道として金津・三国間建設、大正3・7三国港まで延長された。昭和19・10戦争のため営業を休止したが、戦後昭和21・8その一部金津・芦原間を復活したものである。この線は芦原駅で京福電鉄線と連絡し沿線には芦原温泉がある。(森 錦寿)

みさきせん 三崎線 愛媛県八幡浜市と同県西宇和郡町見村(九町)、同県喜多郡長浜町および同県東宇和郡宇和町(卯之町)等を結ぶ国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は同県大洲市にある。



八幡浜・九町	24km	昭27・9・1 開業
喜木・川辻	5	"
伊予清水・伊予長浜	33	"

三 瓶 線 八幡浜・卯之町 44 "

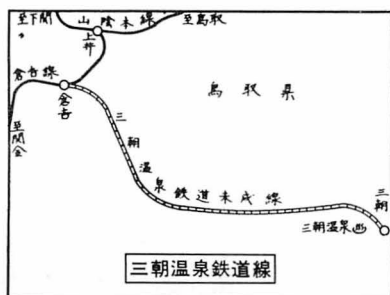
2 営業範囲 小荷物および貨物の取扱をしている。

3 使 命 沿線地方の産業開発の使命を有する。

(可野虎男)

みさきおんせんてつどう 三朝温泉鉄道

1 事業者の概要 名称 三朝温泉鉄道株式会社、会社設立昭和5・2・7、本社 東京都中央区室町、支社 鳥取県東伯郡三朝村、資本金60万円、地方鉄道(未開業)

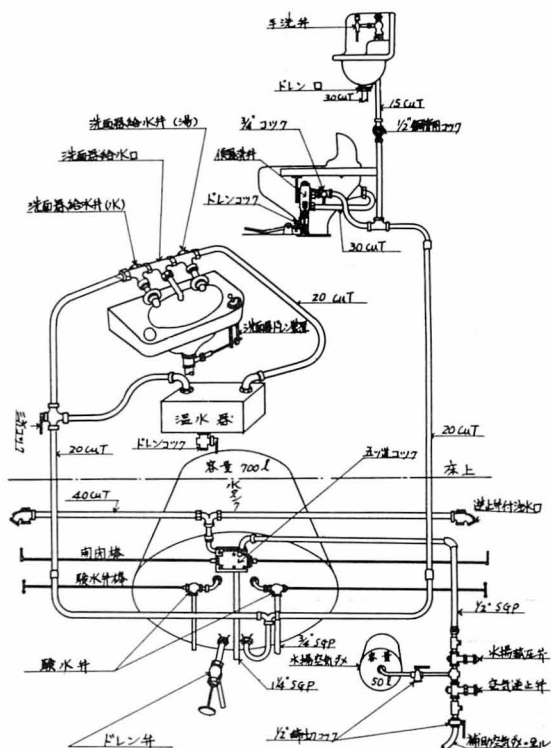


2 免許路線 鳥取県東伯郡倉吉町、三朝村間 8.25km、動力電気、軌間 1.067m、昭和3・2・13 免許、工事施行未認可。(原 功)

みずあげそうち 水揚装置(客車の) (英) water supply system 客車の便所、化粧室へ水を供給する方法には天井(てんじょう)に小形水タンクを設け、水の落差を利用する屋根水タンク式と、床下に大形水タンクを設けこれに圧力空気を作用させて、その圧力によって水を押し上げて供給する水揚装置とがある。屋根水タンク式は水タンク容量に制限があり、たびたび水を補給する必要があること、および落差が小なるため水力が弱く便器の洗じょう等に不適當である。水揚装置は現在使用しているもので、前者の欠点を補い水タンクの容量も大きく、断面はだ円形または円形で、台わく中ばり下につり下げられてある。

水揚装置は略図に示すとおりで、圧力空気(5kg/cm²)は補助空気だめり空気逆止弁(ブレーキ作用に支障を起さないため

水 揚 装 置



のもので調整圧力は4.5kg/cm²にとつてある)をとおり水揚用空気だめに込められ、さらに水揚減圧弁によって1kg/cm²に減圧され、逆止弁・五つ道コックの通路を経て水タンクの上部に入り、水面に作用して便所・化粧室へ出す水を押し上げる。なお水タンクへの水の補給および溢水(いっすい)作用にも五つ道コックを使用している。(内田 昇)

みずきり 水切 船で輸送されて来た貨物を貨車積する場合のように、船の貨物を陸揚げすることをいう。——水取。(近藤正弘)

みずしより 水処理 (英) water treatment

1 意 義

(1) 定 義 水はそれぞれの用途に応じて、その水質が適當であることが必要で、たとえばどんな生水でもただちに飲用に供し得るとはかぎらないし、工業用水として用いられるときは水中の不純物のために支障を生じて、十分所要の目的が達せられなかったり、さらに使用後の水が有害な作用を伴ったりすることのないようにすることが必要で、これらの条件を満たすために採られるあらゆる方策を称して水処理とよんでいる。

(2) 鉄道における水処理の分野と対象 水処理は鉄道においてもあらゆる部門で必要とされる性格のものであって、たとえば蒸気機関車ボイラおよび列車暖房用蒸気発生装置の給水、内燃動車エンジン用冷却水、また鉄道自営の火力発電所におけるボイラの給水、電鉄用直流変電所の冷却用水等に対する適当な水処理、さらに客貨車用蓄電池に必要な蒸留水等をうるための純水処理等、実に広範にわたるものである。しかし鉄道運営の上で比重も大きくかつ他の工業部門における水処理と比較して特異なのは、蒸気機関車ボイラの水処理であるといえる。

したがってここでの説明は蒸気機関車ボイラの水処理について記述する。